

インターバンクの声（2015年7月10日）

なりふり構わぬ当局のサポートもあって、中国上海株が極端な下落から取り敢えずプラス圏まで戻した。日経平均も昨日の早い時間帯の大幅値下がりには肝を冷やした人も多かったと思われるが、上海株の反発が全てではなかったにしても、結局こちらも100円以上値上がりして終えた。日本やアジア圏の国々だけでなく、欧州の一部の国々にとっても中国経済の先行き不安は、ギリシャのデフォルトやユーロ圏からの離脱よりも影響が大きいと言われる。われわれが理解している金融市場と同じルールに基づけば、昨日の上海株もどこまで下落することになったのか想像も出来ない。中国経済と中国市場が改めて統制経済下にあることを認識させられたが、人為的な操作で持ち堪えている相場の、後々の副作用の大きさが気になってくる。ギリシャ政府もようやく新たな金融支援を受けるための条件となる構造改革案を欧州連合に提出したようだが、もはやまともな交渉が出来る相手国ではないとも思われ始めており、12日の欧州連合28カ国の首脳会談も難航が予想される。ニューヨーク市場の後半からは様子見色が強い相場展開となっているが、ギリシャと中国関連のヘッドラインに一喜一憂する日々が暫く続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。